

よもやま話 その4



イトマンSS西神戸校
2010年10月28日号

『読書をしよう!』シリーズ最終回は、『お父さんのための読み聞かせ。』です!!

① 読み聞かせは、お母さんがするもの?

そんな考えを持ってはいませんか。子どもに読み聞かせをすると、子どもの喜ぶ顔が間近で見られることなどから、最近ではお父さんも読み聞かせを行っている家庭も増えています。さあ、お父さんたちも、今日から子どもと一緒に本の世界で遊んでみてください。

② 抑揚をつけてゆっくりと

効果音や人物のセリフなどは、思いっきり抑揚をつけてみてください。お父さんが頑張れば、その分、子どもの反応も良くなります。

④ ひざに抱っこをして・・・

子どもをひざに抱っこして、一緒に本を見ながら読んであげましょう。お父さんのあたたかさを全身で感じ、子どもに深い安心感を与えます。就寝前の読み聞かせは、子どもに寄り添うようにして読んであげてください。お話の途中で子どもが眠ってしまったら、その日の読み聞かせはおしまいです。

③ 時間がなくて・・・ というお父さんへ

『子どもに本を読んであげたいと思っても、仕事が忙しくて時間がとれないので。』というお父さんも多いと思います。子どもは、お父さんが忙しいのを知っているので、時間があるときだけでも構いません。例え10分という短い時間でも本を読んであげて、ぜひ子どもの嬉しそうな顔を見てください。

⑤ 求められたら何度でも読む。

好きな本であれば、子どもは何度でも読みたがります。『もう一回読んで。』と言われたら、面倒がらずに子どもの要求に応じてください。

⑥事前に何回か本を読んでおく。

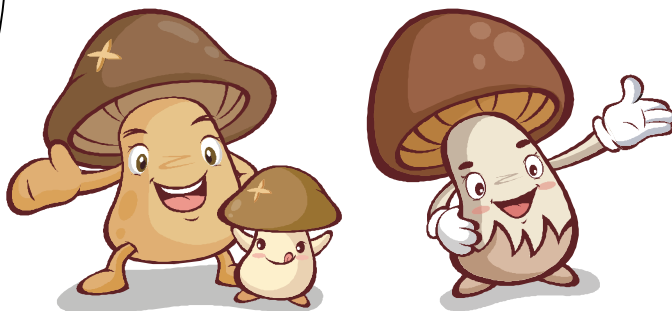
絵本といえども（むしろ絵本だから）、はじめて目にする文章をすらすらと読むのは大人でも難しいものです。ストーリーが頭に入っていると盛り上がる場面もわかっているので、抑揚もつけやすくなります。

⑧読み聞かせは自分にできるだろうか・・・。

自分が実際に読んだものを、自分の好きなように読んであげてください。大切なのは、おとうさんから発する生きた語り言葉のぬくもりを、子どもたちは『おとうさんに遊んでもらった。』と精神的に満足し、愛情を受け止めていることです。

⑦おとうさんが読んであげる本は？

どんな本でも構いませんが、『コワイ本』『うんちやおならの本』『ナンセンスな本』などは、おとうさんが読んであげた方が子どもは楽しめるはずです。コワイ本は、おとうさんが読むことにより迫力が出ます。うんちなどの本は、嫌がるおかあさんもいるかもしれませんが、子どもには絶対に受けます。ナンセンスな本は、さほどストーリーに意味がなくても、奇想天外な出来事を子どもは純粋に楽しんでくれます。



⑨子どもは脱線が大好き！！

時にはおとうさんのアドリブで、本来のお話から脱線してみると子どもは喜びます。そしてその脱線から、子どもも新たなお話に発展させていくこともあります。

おとうさんも子供になって、子どもと一緒にはしゃいでみてはどうですか？



以上、3回にわたって『読書をしよう！』シリーズをお届けしましたが、私もいろいろと勉強になりました。今年、『国民読書年』で、しかも10/27～11/9は『読書週間』です。ぜひぜひ、ご家族みなさんと読書をはじめてみてはいかがでしょうか？